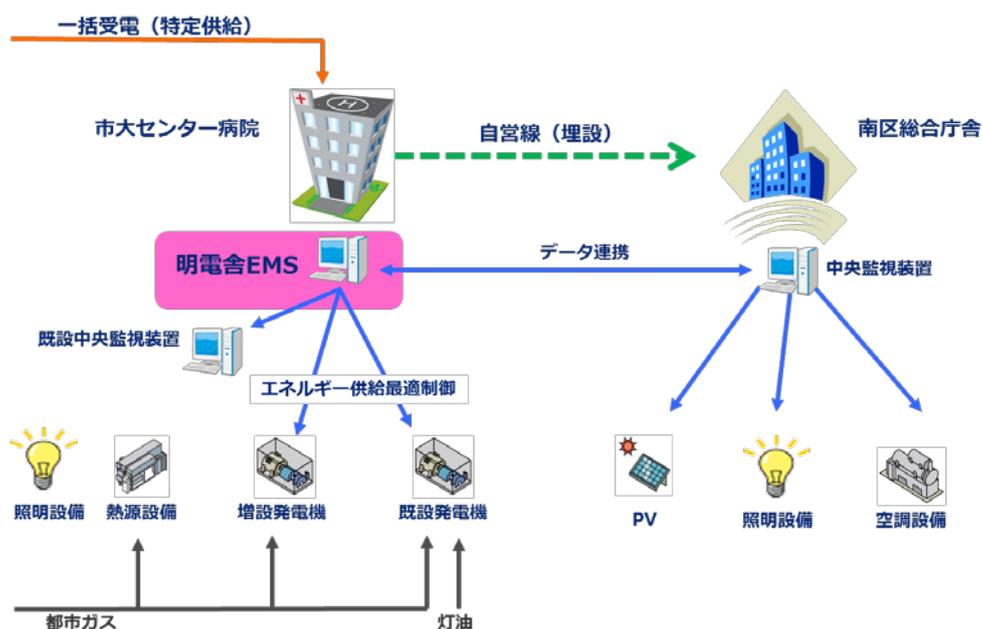


横浜市立大学附属市民総合医療センターへ電源制御型EMSの 実用化第1号製品を納入

株式会社明電舎（取締役社長 浜崎祐司／以下、明電舎）は、本年3月末に、横浜市立大学附属市民総合医療センター（横浜市南区／以下、市大センター病院）へEMS（Energy Management System）を納入します。このEMSは、市大センター病院のコージェネレーション（熱電併給）システムと電力会社からの受電電力を統合制御し、合わせて建設中の新南区総合庁舎への送電も制御するシステムです。横浜市が進めている実証試験「横浜スマートシティプロジェクト（YSCP）」の実用化事例となります。

1. 今回のシステム概要

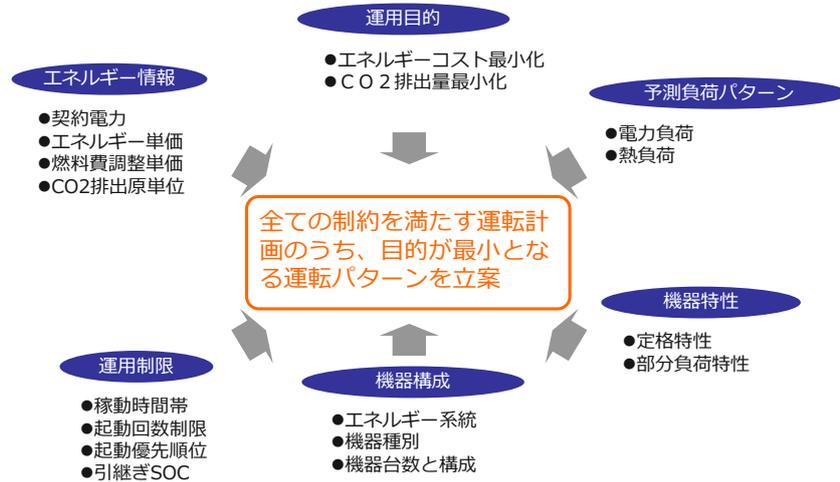


2. 明電舎EMSの特長

- ✓ 明電舎EMSは、自家発や蓄電池など分散型電源を制御するシステムです。
- ✓ 制御目的として、「光熱費最小化」もしくは「CO2 排出量最小化」が選択できます。
- ✓ 負荷予測－電源運転計画－自動制御の機能を有しています。予測／計画は30分単位で行います。
- ✓ 既設事業所でも導入できます。
- ✓ 分散型電源や監視装置が他社製品でも導入できます。
- ✓ DR（デマンドレスポンス）にも対応します。
- ✓ 仮想条件下でのシミュレーションも可能です。

3. CGS（コージェネレーションシステム）におけるEMS制御の例

- ✓ 従来制御はスケジュール運転
- ✓ 明電舎 EMS は、負荷予測を踏まえ、熱需要／エネルギー単価／発電機効率／発電機メンテナンス単価などを考慮し、毎日 30 分単位できめ細かく制御
- ✓ 蓄電システムが併設されている場合には、充放電のタイミングをきめ細かく制御
⇒ 結果として光熱費最小化を実現します。



4. 今後に向けて

明電グループは、これまで「横浜スマートシティプロジェクト（YSCP）」の一環として、みなとみらい地区の横浜ワールドポーターズで電源制御型 EMS の実証を続けてきました。このたびの市大センター病院のケースは実用化第 1 号案件となります。

電力システム改革の進展に伴い、電気事業者のみならず、需要家側も電源の選択幅が格段に広がります。このため、特定供給や自己託送といった手法を考慮するケースも考えられ、ICT の重要性が益々高まると考えられます。

明電グループは、「エネルギーと ICT の融合」を代表する製品として、今後とも電源制御型 EMS を進化させ、電力システム改革に対応した新事業を切り拓いていきます。

■本資料に関するお問い合わせ先

株式会社 明電舎 広報・IR 部 広報・IR 課 TEL：03-6420-8100

以上